

# 要 望 書

海上自衛隊大湊基地港内等の浚渫及び艦艇配備について

青 森 県 む つ 市  
青 森 県 む つ 市 議 会

## 海上自衛隊大湊基地港内等の浚渫及び艦艇配備について

政府の地震調査委員会は、今後30年以内に南海トラフ沿いにおいてマグニチュード8から9の大地震が70パーセントの確率で発生すると指摘しておりますが、「首都直下型」も含め巨大地震等が現実となった場合、海上自衛隊横須賀基地や呉基地は大きな被害を受ける可能性があると考えられます。

また、同委員会は昨年12月19日、北海道東部沖の太平洋で、大津波を伴うマグニチュード9級の大地震の発生が「切迫している可能性が高い」との予測を公表したところです。

このような事態になれば、北日本において唯一海上自衛隊の基地機能を有し、太平洋側の影響の少ない陸奥湾にある大湊基地こそ、災害物資の集積、艦艇整備及び補給支援等の補完基地として重要視され、国民、地域住民から大きな期待が寄せられるものと認識しております。

しかし、現在の大湊基地港内の芦崎湾は水深が浅く、海上自衛隊が現有する大型艦の受け入れに制約があることから、この期待に応えるためにも早急に大湊基地港内及び出入港水路の浚渫により、所要の水深を確保する必要があると考えております。

また、「平成26年度以降に係る防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」におけるイージス艦8隻体制を踏まえると、この配置、配備に関して大湊基地の役割が大きくなるとの国民、地域住民の期待があります。

一方で、むつ市は、明治35年の海軍大湊水雷団創設から長年に

わたり共存共栄の関係にあり、今日の集団的自衛権行使容認等、国際舞台において新たな役割と重責を担う海上自衛隊に対して、地域が一丸となって応援し、協力する土壌があります。

さらに、多くの艦艇の出入港が可能になれば、当市での点検、修理業務の増大など産業・経済をはじめとした地域の活性化にも繋がっていくものと認識しており、地元としても惜しめない協力をさせていただき準備がありますので、大湊基地港内等の浚渫、艦艇の配備について、早期実現を図っていただきますよう要望いたします。

平成30年 月 日

むつ市長 宮下 宗一郎

むつ市議会議長 白井 二郎